

イ. 発震機構

今回の地震の震央周辺では、東北地方太平洋沖地震の発生前は主に逆断層型の地震が発生していたが、東北地方太平洋沖地震の発生以降は正断層型の地震が比較的多くなっており、今回の地震も正断層型である。

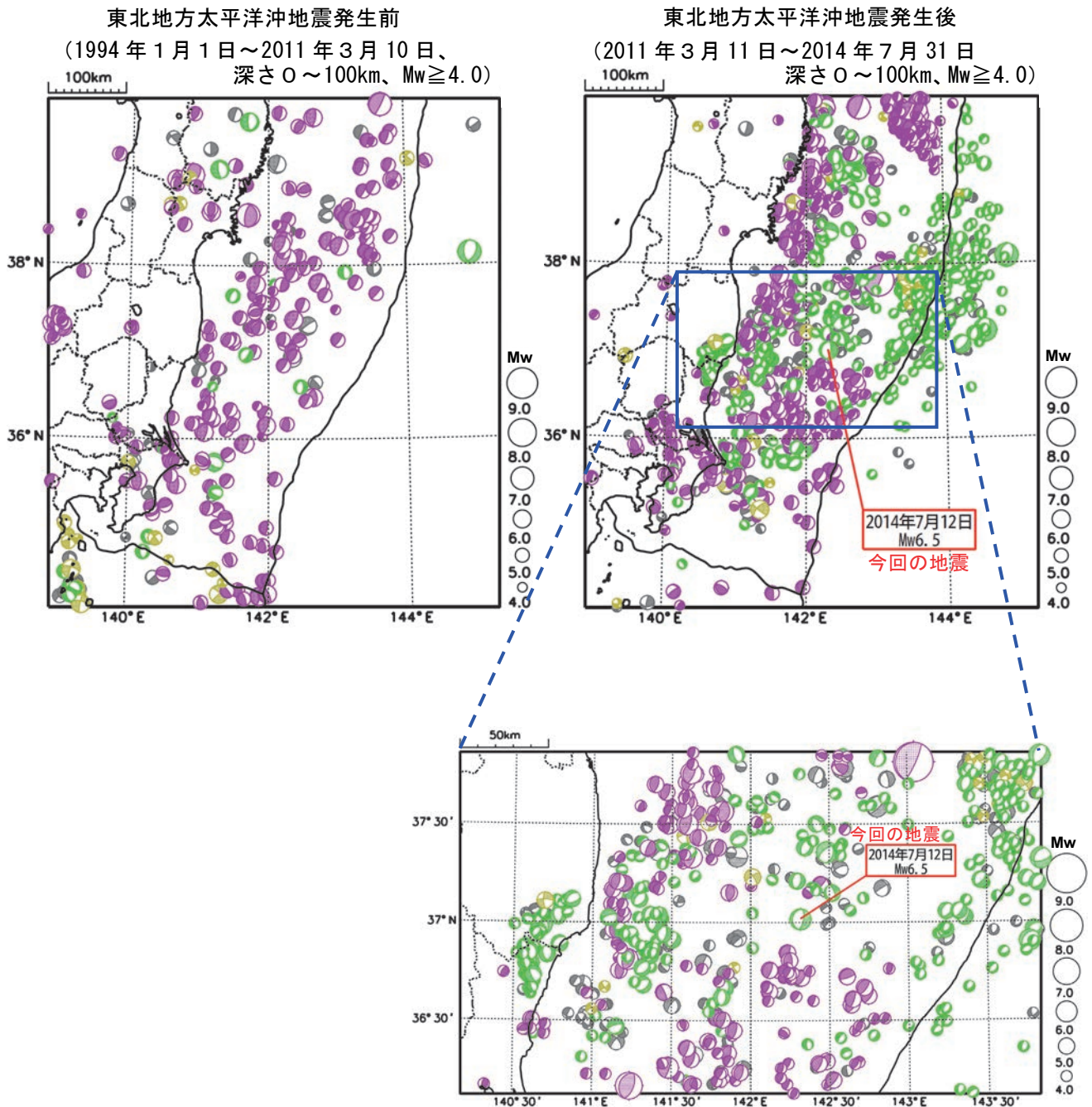


図 2-3 東北地方太平洋沖地震発生前後の発震機構（CMT 解）分布図の比較

逆断層型の地震を紫、正断層型の地震を緑、横ずれ断層型の地震を黄、その他の地震を灰で表示した。

なお、この図ではセントロイド*の位置に表示しているため、他の図とは配置が異なる。マグニチュードはモーメントマグニチュード。

*セントロイド

「セントロイド」とは、地震を起こした断層面の中で、地震波を最も放出した部分を示し断層が最も大きく動いた部分に相当する。これに対し「震源」とは、断層運動が始まった地点を示す。規模の大きな地震では、震源とセントロイドは一致しないことが多い。

